

## ■令和5年9月28日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和5年9月28日（木）11:00~12:00
- 2 場所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、健康福祉部長、  
市長公室長  
○酒田記者クラブ8社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、  
毎日新聞、NHK、YBC、TUY）  
○産経新聞（記者クラブの承認により出席）

## ■市長挨拶

市長／改めまして、本日が実質的に初めての定例記者会見ということになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルス陽性ということで大変ご心配をおかけし、またご迷惑をおかけいたしまして申し訳ありませんでした。先週の火曜日には、もう熱が下がっておりまして、水曜日からはオンラインで打ち合わせなどをしておりました。職場復帰は、今週月曜日からですが、ご心配の方もいらっしゃると思い、念のためマスクは普段着用しているのですが、記者会見は外させていただきます。

## ■市長発表事項

### 1 酒田市の各表彰制度 令和5年度受賞者について

市長／酒田市の各表彰制度、令和5年度受賞者について発表いたします。

酒田市の各表彰制度における令和5年度の受賞者が決定いたしました。

今回の表彰は、1つ目に功労表彰、2つ目が市民表彰、3つ目が農業賞、4つ目が庄内文化賞、この4つの部門で決定をいたしました。

各表彰制度につきましては、別紙資料の1ページをご覧ください。

受賞者一覧につきましては別紙資料の2ページをご覧ください。

功労表彰の受賞者は6名であります。

ご紹介申し上げますと、高橋幸雄様は、「山形県建設業協会酒田支部」の支部長を長年務められ、本市の建設業界をリードし産業の振興に多大のご貢献をいただきました。

弦巻伸様は、「酒田商工会議所」の会頭を務められ、インフラ整備、地域産業や交流観光の促進発展など、産業の振興に多大の貢献をいただきました。

阿部建治様は、「酒田市自治会連合会」の会長を長年務められ、住民自治の向上に多大の貢献をいただきました。

矢島恭一様は、「酒田地区医師会十全堂」の副会長を長年務められるなど、保健・衛生の向上に多大の貢献をいただきました。

阿部直善様は、「酒田市社会福祉協議会」の会長を長年務められ、地域福祉の向上に多大の貢献をいただきました。

石黒光二様は、日彫展西望賞、それから日展内閣総理大臣賞など数々の賞に輝かれ、文化と芸術の振興に多大の貢献をされました。

次に、市民表彰の受賞者は、5人の個人の方でいらっしゃいます。

富樫鏝一様は「酒田市自治会連合会」の副会長などを務められ、住民自治の推進に貢献をされました。

後藤吉史様は、「松山地区コミュニティ振興会連絡協議会」の会長などを務められ、住民自治の推進に貢献をされました。

佐藤俊次様は、「酒田市地区自治会連合会」の会長、それから「酒田市スポーツ少年団」副本部長などを務められ、住民自治の推進及び体育の振興に貢献をされました。

斎藤潤子様は、統計調査員を長年務められ、統計調査活動に貢献をされました。

高橋利春様は、「酒田市自治会連合会」の副会長などを務められ、住民自治の推進に貢献をされました。

次に、農業賞の受賞者はお1人の個人であります。

農業関係団体の指導的地位を担うとともに、地域農業の振興と、本市農業の普及啓発に貢献された、伊藤千春様であります。

最後に、庄内文化賞の受賞者は1人、個人であります。

松ヶ丘開墾場「ギャラリーまつ」を活用して文化芸術振興に大きく貢献をされました、酒井天美様です。

以上の受賞者の詳しい功績内容については、別紙資料の3ページ以降をご参照ください。顕彰式につきましては、11月2日（木）午前10時からベルナール酒田で執り行います。

## **2 令和5年度酒田市新田産業奨励賞授賞式及び記念講演会について**

**市長**／令和5年度酒田市新田産業奨励賞授賞式及び記念講演会についてであります。

本年度の新田産業奨励賞は、企業2社、そして1つの団体であります。

1社目は、株式会社東洋開発様です。本市を中心とした不動産業を営む企業であります。誰もが働きやすい職場づくりの積極的な推進による女性活躍の環境整備、それから、高校生の様々な活動を支援されているということで、女性の働きやすい職場、或いは若者の働きやすい職場、それから活動の支援ということで、他の模範となるものというふうに考えました。

次に、株式会社原田瓦工業様です。確かな技術力を有する瓦屋根葺き企業であります。埋立処分しかなかった廃棄物を収益素材として再生し事業化したり、また素材の新たな活用方法を開発したりと、今の時代に合った形で本市の産業の振興に貢献されております。

次に、JA庄内みどり ケイトウ専門部です。メロンの後作としてケイトウ栽培を主導し、規模を拡大している団体です。高品質を維持して、市場でのブランドを確立し、独自品種を開発したりなど、取り組みは本市産業の振興に貢献をしております。

なお、授賞式は11月6日（月）午前11時からガーデンパレスみずほで行います。合わせて記念講演会を同日午後1時に公益ホールで、一柳良雄様の講演、それから一柳様と関根近

子様、山中大介様の鼎談を実施する予定になっております。

### **3 登録観光地域づくり法人（登録DMO）の登録について**

**市長**／一般財団法人酒田DMOが登録観光地域づくり法人（登録DMO）に登録されたという報告でございます。

観光庁におきまして、観光地域づくりの司令塔となる「登録観光地域づくり法人（登録DMO）」およびその候補である「候補観光地域づくり法人（候補DMO）」を登録する制度を創設しております。本市におきましては、令和4年5月26日に一般財団法人酒田DMOを設立いたしまして、令和4年10月28日には「候補DMO」としての登録を受けました。本市並びに山形県、市内の観光事業者など、市内外の多様な関係者と連携をしながら、本市の観光情報発信・プロモーション事業、観光資源の磨き上げ事業等を行ってまいりました。

このたび、観光庁におきまして、令和5年9月26日付で「登録DMO」として新たに追加されました14団体の中に、本市の一般財団法人酒田DMOが登録されました。今回の登録等によりまして、「登録DMO」は全国で282団体ということでもあります。

酒田DMOからは、今後とも本市と連携を取りながら、地域の観光産業の舵取り役、牽引役として、観光資源の更なる磨き上げ、インバウンドを含め本市の観光情報の発信、事業者連携を、より一層推進していただくことを期待しております。

**記者**／「登録DMO」についてお伺いします。全国で282団体になったということでしたが、県内では、何団体目になりますでしょうか。また、登録にあたって酒田DMOさんがこれまでやってこられたことで、特に成果とするところ、具体的にどういったところがあるとお考えでしょうか。

**地域創生部長**／県内の登録DMOですけれども、酒田市と同じ地域DMOは、鶴岡のDEGAM鶴岡ツーリズムビューロー、この1つだけです。広域のDMO、それから地域連携DMOという3つ区分があるのですけれども、それを合わせますと、酒田DMOを入れて3つになります。

特徴的な活動でございますけれども、1つ海外展開ということで考えますと、台湾との交流として、一応予定ですが、12月の中旬には台湾台中市の教育旅行で、酒田に4日間訪れるような事業なども組まれております。これから、台中市内との学校との交流活動とか、台中市に「裕毛屋」というショッピングセンターで日本の食材を販売しているところがありますが、そこで10月に「酒田フェア」というような活動も行います。

それから、10月の上旬になりますけれども、台中市の観光旅行博覧会、観光旅展という名称になるのですけれども、そこに酒田舞娘をお連れしながら酒田の文化紹介、観光資源紹介そういったことを副市長がトップセールスということで伺う予定であります。これもDMOがしかけてきた事業でございます。

また、様々な観光の磨き上げという点では、日本国内、インバウンドなどもそうですけれども、体験旅行といったものが必要になっております。アドベンチャーツーリズムとい

う表現を使っておりますけれども、ジオパークや日本遺産、こういったものを中核としながら自ら何か活動をする。例えば、八幡地域のじゅんさい摘みだとかそういったメニューの開発、こういったことも行ってきております。

また、ANAのアンバサダーの皆さんと取り組んで、例えば「でゅ〜」というお酒などのプロモーションをしたり、そういった観光誘客と、物産振興、地域商社機能を合わせた活動をしているという状況でございます。

**記者**／今回、登録DMOになることで、活動の幅に広がりが見られますか。

**地域創生部長**／これまで、候補DMOとして昨年の10月に登録をさせていただきました。この時にDMOとしての受験資格を取ったと話をしました。この受験資格を取った上で、今回その受験に合格をして、登録DMOになったという状況でございます。

これによりまして、1つ大きなところは官公庁の補助事業、いわゆる登録DMOでしか申請ができないような補助メニューがたくさんあります。こういったものにチャレンジすることができます。同時にこのチャレンジをするということは、観光庁からのアドバイス、指導、こういったものを強く受けられるという状況になってきます。DMOとしての質の向上、それから観光地域としての酒田市の魅力向上、こういったところに繋がるということで考えております。

**記者**／登録DMOの件でもう1点、具体的に国の方から登録されることで、財政面だとか人員的な補助みたいなものは得られるのでしょうか。

**地域創生部長**／今、お話しした通り、補助メニューが登録DMOでないと申請できない部分がありまして、そこに向けて申請をして合格をすれば、それなりの補助事業が得られて、そこには10分の10の補助事業であったり、3分の2の補助事業であったり、そういう意味では活動のための、いわゆる財政支援というようなことを得られるという状況になるかと思えます。

それから、人材派遣として常駐するという事ではないのですが、DMO荒井理事長がもともとJT Bで働いていた方なので、観光事業に対する知見は有していると思います。国内国外の観光のトレンドだとか、そういった情報なども得やすくなって、3大観光拠点地と言われる京都、或いは中京、それから関東というところから、地方へと足を運ぶ、そういったところへの知恵を様々いただきたい。或いは、どういった方々が地方へ興味を持っておられるのかそういった分析情報など、そういったものも、国から得やすくなるというところだと思っております。

## ■代表質問

### 1 酒田の花火全国二尺玉花火大会で、約8,000人分の売れ残りが出たことについて

**記者**／酒田の花火全国二尺玉花火大会で、約8,000人分の売れ残りが出たことに対する見解をお願いいたします。

**市長**／今年の花火大会は4年ぶりの開催であるとともに、これまでの「花火ショー」から2尺玉花火の「競技大会」へと、大きく転換をして開催した大会でございました。

令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止、そして昨年度は豪雨災害の影響で中止と、前回の開催から期間が空き、関係者の経験の中断が生じた中で、今回大きな事故がなく無事に大会を終えることができましたのは、関係各所の皆様のご尽力、ご協力あってのことと、あらためて御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

酒田の花火実行委員会は、市長が大会会長となっておりますので、去る9月11日に開催された実行委員会に私も出席いたしまして、今年度の開催実績の報告を受けたところであります。今年度の酒田の花火大会のポイントは2つあったと思っております。

1つ目は、酒田の花火は市民の楽しむ花火であるという大原則はありますけれども、人口が減少し、また、様々な資材の高騰もある中で、これからも酒田の花火を財政的にも持続可能なものにしていくためには、やはり今後は独自の事業資金も少しずつ獲得していく必要があるという考え方から有料席の拡大を図ったということが1つ。

2つ目は、そういった有料席の拡大に伴う安全管理、事故のないようにということで、安全対策を徹底したこと、この2点が大きなポイントだったかなと考えております。

具体的には、有料席の方は、席数と範囲を大幅に増やしました。また、安全対策の方は、有料無料の観覧エリアを分け、来場者の混雑を分散させるなど、雑踏対策の新しい取り組みを行うとともに、有料観覧席の種類別に指定駐車場を設けることで、遠方からおいでのお客様にも確実に駐車していただける仕組みを考えたところでありました。このように、事業資金の確保、それから観覧者の安全対策を目的とした取り組みを強化したというところでございました。

ただ、結果を見ますと、有料観覧エリアの入場者数が見込みを大きく下回る結果となりました。1万2千人に止まりまして、売れ残りが出ました。その結果、有料観覧席の販売収入も予算を大きく下回る結果となりました。

過去の大会では、観覧会場内で自由に観覧ができたというところから、市民の間で有料化への抵抗感があることは理解できるところでありますが、今申し上げましたように、時代が変わってきております。全国的にも経費負担の増加によりまして、花火大会の開催が難しくなってきたという状況がある中で、やはり最初に掲げたねらいですね。市民花火ですけれども、有料席を販売して事業資金を調達したいというところは、今後も必要なことかなというふうに考えております。

ですから、今後は今申し上げたように、なぜ有料化が必要なのか、決して観光客だけに見せる花火にするということではないのですが、まず、市民の楽しめる花火を持続可能にしていくために、一部業務の拡大もこれからは必要だったのだというねらいを丁寧に説明することが必要だと考えております。そして、結果として今回うまくいかなかったことは真摯に反省をいたしまして、二度とこのようなことがないように、事業資金獲得のために行っていることですので、その改善策をしっかりと練っていくということで、市民のご理解を経ていきたいと考えております。

記者／売れ残りが5分の2も出たことについての市長の見解をお伺いしましたけれども、

原因について、今現在の分析みたいなお話いただけますか。

**市長**／先ほど、安全管理のために駐車場を確実に用意するというので、駐車場とチケットが一体となった販売ということを今回いたしました。

その際、今回初めての経験でございましたので、指定駐車場が予定していたよりも実際には少ない台数しか確保できませんでした。現地を見て、初めてこんなに多くは確保できないということが分かった部分もありまして、駐車場の確保ができなかったチケットがあり、販売が難しくなったという部分がありました。

そして、すぐに駐車場がないチケットで販売しようということでしたわけですが、時間が足りなくて、かなりのチケットの数が余ってしまったということになったというのが、基本的な原因かなと思っております。

**地域創生部長**／市長がお話した通り、チケット1枚に対して、1つの駐車場を準備したところですが、駐車場の台数を確保することは難しかった。駐車台数を拡大した駐車場もございしますが、いざ使おうとしたところ、駐車場として使いにくいという状況が確認された場所がありました。その時点で、駐車場とセットにできないチケットについては、売ることを一時停止いたしました。それによって販売できなかったということでございます。そういった状況で、チケットを売り切ることが出来なかったというところでございます。

**記者**／販売できなかった期間というのはどのぐらいになりますか。1週間、2週間ですか。

**地域創生部長**／いいえ。S席とA席、それから様々な席を調整していったのですけれども、6月1日から販売をいたしまして、その後7月の4日に一時販売を停止した席が出ています。ですから、1ヶ月ほどは販売をしておりましたが、それ以降、7月4日以降は、席によっては販売をしていないという状況で8月5日を迎えたという状況でございます。

**記者**／後半の1ヶ月ぐらいは販売を止めていたという理解でいいですか。

**地域創生部長**／はい。席によっては止めていました。例えば、S席については、そこは駐車場セットができていましたので、そこはずっと販売をし続けていました。ところが、A席については駐車場をセットすることができなかったため、7月4日に止めています。

それで、そのまま7月以降止め続けておりましたが、途中で駐車場がなくても、例えば多くの市民の方や商工会議所関係の皆様とかは、駐車場がなくても自分で行けるといった状況もありましたので、そういった方々には駐車場と席をセットしないで販売をするということも試みました。

**記者**／セットしないで販売するというのは、大会開催の直前ぐらいになりますか。

**地域創生部長**／7月20日以降です。そういった限定的に駐車場がなくても買っていたという方を探して、販売をしているという状況でございます。

**記者**／そうすると、やはり駐車場とセットで売り続けたのが、一番の見込みを下回った原因と捉えていらっしゃるのでしょうか。

**地域創生部長**／物理的に販売をしていなかったわけですので、そういったことが原因だというふうに考えております。

**記者**／3年ぶりで、初めての経験でしたので、見込みどおりには確かに最初からはうまくはいかないと思いますけれども、来年については、先ほど市長もおっしゃっていましたが、無料エリアの拡大というのは、市民の花火ショーという経緯も踏まえてということでしたが、この間の会合では無料席の拡大というまでは、まだ言及はなかったですね。

**地域創生部長**／9月11日に実行委員会を行っておりますけれども、そこではまだ今年度の状況をお伝えするということでした。市長が申し上げた通り、市民の花火であるということをしかりと意識をして、その上で有料席は事業の実施、継続する上で必要だという認識もありますので、そういったところを踏まえて、来年の計画を立てながら実行委員会につないでいきたいと思っています。

**記者**／29日に開会する9月定例会の方で、酒田の花火の補正予算も組まれていたかと思うのですが、こちらが補填する額が1,900万円ということで、今回その有料席を大幅に増やしたことで、行政負担の軽減も目的の1つだったと事前にご担当の方からお伺いしていたのですが、実質その1,900万円補填した分を加味すると、市の負担というのは、前回と今回と比べてどれぐらい増減があったのでしょうか。

**地域創生部長**／前回というところを令和元年度といたしました場合、令和元年度の市からの負担金収入は2,447万5千円になっております。令和5年度の決算として、補填する1,900万円を加えますと4,250万円になります。そうしますと、約1,800万円の増加となります。

**記者**／負担軽減を目的としていて、実質増えてしまったという結果を、矢口市長はどう捉えていらっしゃるのでしょうか。

**市長**／大変残念に思いますし、市民の皆さんにも大変申し訳なかったというふうに感じております。今申し上げましたように、明日から議会も始まりますが、まずは議会を通していろいろなご質問をいただくとお思いますので、その場で、そもそものねらいとそれがなぜ実現できなかったのか、そして今後の改善策、この3つをしかり説明していくことによって、ご理解を深めることができたら大変ありがたいというふうに感じております。

## **2 加藤鮎子こども政策担当大臣について**

**記者**／加藤鮎子こども担当相が全国的にも注目されて、地元選出議員として期待が高まっていると思いますが、市長としても一言期待感と、あと酒田市のこども政策も頑張っていると思いますので、その現状をお伺いできればと思います。

**市長**／加藤鮎子代議士におかれましては、こども担当相、或いは女性活躍男女共同参画も担当だったと思いますが、本当に、山形3区の有権者大変喜んでおります。

そして、私が良かったなと思いますのは、政治の世界と実際の市民の生活、それが特に国レベルでは乖離をしている、市民と遠いところに政治があるということがよく言われます。その理由の1つが、やはり当事者が政策決定の場にはいない、当事者が政治の場にはいないということが1つの大きな日本の政治の欠点だというふうに言われていたと思います。そういった意味で、こどもの身近にいらっしゃって、現在子育てをしていらっしゃる加藤

代議士が、こども担当の大臣になられたということで、その現場感覚、当事者の感覚が、いい政策提案、政策決定がなされるのではないかと大変期待しているところです。

また、新聞を読みましたが、自分の経験に頼るだけではなくて、エビデンスもしっかりと見ていくのだという報道がありましたので、大変バランスのとれた政策決定になるのではないかなというふうに期待をしております。

そして酒田市の政策でございますが、こども政策と申しますと、実は私は2種類あると思っております。こどもの幸せを実現する、生活や子供の状態を向上する、そのような「こどもまんなか社会」の政策が1つ。あともう1つは、子育て支援策です。子育てをしている親の施策ということですが、この2つがあると思いましたので、本市の施策について、こども施策と子育て支援策を分かるように資料を作成させていただきました。資料では市が取り組んでいる主なものを挙げておりますが、その中でも今年度の特徴を申し上げますと3つかなと思っております。

1つは、④のこども家庭センターの開設でございます。

これまで、別々の課に置かれておりました「子ども家庭総合支援拠点」それから「子育て世代包括支援センター」この2つを統合いたしまして、市役所の1階に「子ども家庭センター」として設置をいたしました。

そして、そこに専門的な職員を配置いたしまして、例えば①の児童虐待の防止、ここにも専門的な職員を配置し、或いは③発達支援の充実、こちらも専門的な職員が横断的に見られるような体制をとりまして、子供家庭センターを通して施策の充実を図ったというところでございます。

2つ目は、⑤の子育て支援医療の対象年齢の拡充でございます。

本年7月診療分から適用開始しまして、高校生等18歳の年度末まで、医療費の無償化を実施しております。これが2つ目です。

3つ目は、少し戻りまして③発達支援対応の充実です。障害児のいらっしゃるご家庭の保護者の方も、今の時代、人も減っておりますので、健常児の親だけでなく、障害児の親も働きたい人は働けますように、障害児保育のところを強化したいというふうに考えておりました。ですから今回、児童発達支援センターはまなし学園、こちらでは令和5年度から預かり時間の延長、そして土曜預かりを試行しております。

ぜひ、試行結果を受けて更なるサービスの充実に努めていきたい、そのための第一歩をまず令和5年度から始めたところでございます。

以上が、この6つの中でも特に特徴かなと思ひましてご紹介させていただきました。

### **3 市内中学校の生徒が自死した問題について**

記者／先日、マスコミが開示請求していた最初の調査委員会の報告書が、我々も目にする事ができたのですけれども、改めていじめ再調査委員会の進捗状況と調査の見通しについて、お分かりになる範囲でお願いします。

市長／再調査委員会ですけれども、昨年10月4日に設置をいたしまして、第1回目の



委員会会議を昨年の10月14日に開催、そして、以来、関係者への聴き取り調査を含めて、これまで20回にわたって、大変慎重かつ丁寧な委員会会議を行っていると同っております。

この度の調査におきまして、最重要と考え、時間を要している関係者への聴き取り調査、これにつきましては、今年1月下旬から継続し、これまで着実に進んできており、現時点で11月上旬頃まで関係者への聴き取り調査が予定されていると同っております。

報告書提出の見通しについてですが、丸山前市長が定例記者会見におきまして、「あくまでも個人的な思いだが、令和5年度中には何とか結論まで持っていただければありがたい。」と同仰っていたということで、私も全く同じ思いであります。

しかしながら、本再調査委員会には、市から独立した第三者機関として調査を進めていただいておりますので、その進捗につきまして、いたずらに市から意見や要望を申し上げるべきではないというふうに考えております。

したがって、調査の終了時期につきましては、現時点で具体的な時期を市から申し上げることは差し控えたいと考えております。

当初の想定を上回る頻度で委員会会議の回数を重ねていただいておりますが、委員の皆様には本当に大変なご苦勞をお掛けしておりますが、事案の全容解明と、二度とこのようなことが起きないように再発防止を図るため、今後とも、着実に調査を進めていただきたいというふうに考えております。

**記者**／再度確認ですけれども、関係者への聴き取りというのは、現時点では11月上旬まで予定されているということでしょうか。

**総務部長**／はい。

**記者**／延べ人数とかそういったことは今は分かりませんか。

**総務部長**／そうですね。

**記者**／新しく聞き取りをした関係者がいるのかというのはどうでしょうか。

**総務部長**／聴き取りについては、学校の先生、学校の生徒、同級生であったり先輩であったり、一緒にクラブ活動したりという方を含めて、多様な方に聴き取り調査をやっているということでございます。

先ほど市長申し上げたように、11月上旬まで今のところ確定してしまして、最終段階なのだろうなという認識はございますけれども、明確に、ここで終わりということまでは、私どもとしては申し上げられないということでございます。

**記者**／再調査委員会は、最初立ち上げのころは、逐一というかその都度、進捗状況などオンラインを通じたりして取材の機会もあったのですが、関係者への聴き取りに入ってから、なかなか言えることと言えないこともあるし、途中経過で言ってもしょうがないというのがあるかもしれませんが、今のスケジュールで、関係者への聴き取りが終わった時点で、見通しや中間的な報告など、そういう取材の機会というのはありますでしょうか。

**総務部長**／最初に第1回目のぶら下がり含めて、会合を持った際に、栗山委員長が直接お

話をさせていただいたところでございます。

できれば、継続したいということもあったのですが、具体的にヒアリングに入ると、なかなかその時点で申し上げられることはないですし、一度、途中経過をお話しただきたいということも、お話しはさせていただいたのですが、やはり、ヒアリングを受けられる方への心理的な動揺を含めて心配だということで、ヒアリングを行っている期間については、そういった取材については遠慮させていただきたいということですので、それが終わった時点で、会合を持った際に一回お話しをさせていただくということは、対応できるものというふうに認識をしております。

**記者**／もし、その機会があればぜひ、よろしくお願いいたします。

**記者**／今現在、酒田市長直轄の再調査委員会については伺いましたが、その前に、酒田市教育委員会の方に常設されていた、いじめ問題対応委員会の方で調べてまとめた報告書について、先ほど、我々も拝見させていただいたという話しをさせていただいたところですが、その内容について、前回の第三者委員会の調査結果について、目を通されたか、まずはお聞かせください。

**市長**／はい。目を通しました。

**記者**／それを読まれた率直な所感をお聞かせください。

**市長**／読んだ限りでは、大変丁寧に、また、偏りなくいろいろな情報、環境、広く網羅して調査していただいているのではないかという印象は持ちました。

**記者**／遺族からの意見書などが提出されたことを受けて、今現在、酒田市長直轄の第三者査査委員会で調べていらっしゃると思いますが、その前回の調査結果について、今のところ不足があったか、或いはどういった点にそういったことを感じるかというのがございますか。

**市長**／そうですね、1つ挙げるとしますと、アンケートの取り違いというのでしょうか。そういったところは、なぜそんなことがあったのかは分かりませんが、丁寧に調べていただけたらよりはっきりするかなという感じはいたしました。

**記者**／一応、前回の報告書の結論としては、いじめが自殺の直接の主な要因とまでは言えないけれども、一定程度の因果関係があったというふうに結論づけていることについては、いかが思われますか。

**市長**／報告書を読んだ限りはそういう結論になるだろうということは理解できます。

ただ、報告書が不足なところがあるのではないかとということで、今やっておりますから、その結果を待ちたいというふうに思います。

**記者**／市長自身がその結論についての印象というか、お気持ちというのを聞かせていただけますか。

**市長**／酒田市内の中学校でそういったことが起きた時、私も副市長でいた時のことから、その朝のことは本当によく覚えております。

ご家族のお気持ちを考えると、本当に心苦しいです。それはみんな、ご関係者の皆さん同じ思いではないかなと、苦しいだろうなというふうに察しています。

**記者**／今のアンケートの取り違いの問題に対して、市長は丁寧に調べた方がよかったですので

はないのかとおっしゃっていましたが、調査はもう終わったのではないのでしょうか。取り違えに関して、報告書を見ると、結果3重のミスが重なったという結論で、隠蔽とかそういったことではないという最終結論だったと思うのですけれども、今後、例えば再調査委員会で、これに関しても調査は進めていくのでしょうか。

**総務部長**／第三者委員会ということで調査をしておりますので、具体的にその部分についてどうかということについては、現時点で申し上げられることはないということでご理解をいただけたらと思います。

**記者**／もう1つですけれども、不可解なアンケートの取り違えということで、ちょっと私は感じたのですが、3重のミスが重なったということ事態が、誰かを例えば処分するとか、これは県教委なのかもしれませんが、何かそういったことはあるのでしょうか。

**市長**／まず今、もともとの教育委員会の調査を踏まえての再調査委員会、全体的にやっただけだと思っていますので、その結果を待ちたいというふうに本当に思っております。

## ■フリー質問

### 1 市立松陵保育園の廃止について

**記者**／先日、松陵保育園の廃止の問題につきまして、市長の方に守る会の方々から手渡しで要望がされたと思うのですけれども、あの問題について、今の市としての立場、どのようにお考えかということをお聞かせください。

**市長**／今週中に文書で回答いただきたいということだったと思いますので、今、庁内で、もちろん検討はしております、明日までに文書で回答したいと現在進めております。

**記者**／向こうの会の方々、一方的に通達されたというような印象を持っていらっしゃるわけですが、その辺りはいかかですか。

**市長**／そのことにつきましては、市の説明が遅かったですね。廃止の時期を考えますと、お伝えするのが大変遅かったということについては、まず、お会いしました時に申し訳ございませんでしたと率直にお詫びを申し上げました。

**記者**／これは、子育て政策の話しに大変関連してくると思うので、今後どういうふうに進めていきたいかということをお聞かせください。

**市長**／子育て政策はもちろん重要な政策です。しかし、私が1番に今回の選挙で申し上げたことは、酒田市だけではなくて、日本全体で人口減少が進んでいるということです。そのことが、いろんな問題を地域に引き起こしている、まさにこの保育園の問題もその1つであります。

ついこの間まで、待機児童が多い、保育士さんが足りない、ということでありましたけれども、あっという間に、今度は園児が足りない、経営が大変だということで、本当にたった数年で状況が変わって、本当に法人立保育園の皆さんにご苦勞をお掛けしていると思っております。

私が申し上げている人口減少への対応の中でも、豊かに安心して暮らせる、そういうまちをつくるというのが、一番申し上げたいところです。保育園の問題も、そういう中で、

どうしたら安全安心に、子供たちも親も通える、そういう体制ができるかということ、いつも考え、判断をこれからもして参ります。

## 2 「マリーン5清水屋」跡地について

**記者**／先日、マリーン5清水屋の債権者集会が行われましたけれども、まだ、全く話しがまとまらないという状態が続いているのですが、その中で破産管財人の方から、市の方で何か介入してくれれば動きが出てくるのでは、というような話しもありました。今後市の方で介入する可能性とかあればということで伺いたいです。

**市長**／特に介入は考えておりません。報道は私も見ましたけれども、実際、報道されていることしか私も分かりませんが、何とかしたいという思いは、酒田市民みんな同じ思いです。あそこの場所を、なるべく早く何とかしたいという思いは、地権者の皆さんも周りの市民の皆さんも同じだと思っておりますので、必ず、どこかで早めに合意できるのではないかというふうに、私は感じております。

ですから、市が介入する必要はないと思っております。